

外務省
外務局

少輔 第四号

箱子
古本
庶務

寫濟

一家除廢事喜臨一能各位花中清
福寺屋方地隨者方百差其在
初中休意可三也

伊地志方員督意並當年地古在初之
與高系祝方始隨送之者一自去也

當地也立除於三寸不出意可成在也

三使至用一藩後通二清取情也伊

外務省

地志方員督意並當年地古在初之

測量船方是丁解九去方考能十者

田三寸大阪在古先島測量之也帆

丁解九去未嘗地磁波近一也而之測

量除在古大阪在也近者地古伊帆

存

先法中使心其才也号之三号迄之公

伝意也古為子一存其得也為念至其

五月廿七日 下出也

明治六年 四月廿三日

琉球藩在初

堀江外務少輔

福崎孝廉

花房外務大丞殿

梅田親義殿

外務省

密

外務省の記

一四田出

三三三

一厚底人之家守柳海平大佐之叔父也

三三三

一四子修守藤山島家之叔父也

三三三

一四子守長崎守家之叔父也

一四子守琉球藩守家之叔父也

外務省

但内務省不承認

一伊地家守家之叔父也

三三三

一伊地家守家之叔父也

三三三

+

校濟

明治六年五月廿九日來

第五号 琉球在邦か之來信

一 平波海上に向暑し并本州有各位益内

安寧也事務を依て在り二南方一日無失

左和也急念と下百為の然も尚地諸島測

量私大板丸去月七日八重山島が四帆所

年七月廿七日島、漂流致り西班牙領片宗

令也在り地名誘引所紙之通概海軍大統

外務省

か掛念有之不取故小蒙直達美是清不藩

以在通泊村大久吉一人至審人其外多中為

波至存念と一應尋問可波下存既人之英

徳通一以者以通和久早途出張一面會致以

交概身贈し者之者之若名横又と之業了

事公何乳類り述之不取分英語も石通

以約大西班牙とり多り夫と通り付原宣以身

理金之是海一之是合子概以而一在受

何し大書之根丸生後島、不調及又
西阻牙等あり者、在述三言、以言出帆
之象、京船三邦丸、西乘、但外百筑、其之
取、雲之、何、添、麻、兒、島、絲、上、送、屋、口、縣、が
長、寄、船、ハ、護、送、ハ、株、主、連、ハ、尤、書、知、事、ト、別
紙、ニ、古、家、知、者、之、後、依、テ、一、件、書、類、悉、比、旨
ニ、添、付、申、上、也

明治六年五月二日 琉球藩在知

外務省

坂外務抄録

福寄季連

花房外務大臣版

榎田親義版

尚、以、本、文、際、亦、人、九、麻、兒、島、船、以、取、上、之、交
諸、々、由、藩、費、ニ、充、テ、以、申、願、シ、以、身、在、私、大
對、話、出、上、之、旨、ヲ、百、答、念、上、也

朝鮮省出使所手記書翰寫

去四月九日朝鮮國使館後訪多山千原邊一日十七日釜
山邊石垣港より高島浦事少浦皮早速川村を以
及上陸多敷不圖漂流人四名に遭遇し其因縁ヲ
尋問所多敷又言語多敷不分明出所不明出所不明
余又又其何國人ナル事ヲ知ラス昨年七月六日福永
と兼一西表臨南風見浦に漂流し其因縁ヲ知ラス日
迄石垣村事少浦に在るヲ終る迄各事少致方々由中
出所不明客体裁ヲ無視スルに蒙古語多敷及又自
習語ニアラス其後巫由人移る大洋群島迄

外務省

考く、控録五原し其時早速石川洋之助ヲ以て移る
及該台多敷又英語且漢字も不分明、其譯書ニ及
多敷各名由り、箇より戸籍示、譯書移る者ヲ其
出所不明及、其是も多敷又文字佛あり、其く僅く其地名
マニラ、カハヤン、其二語ヲ了解、其因縁一層
地圖地書多ク、以て味多敷、別マニラ、其亦那海南
洋、利約、群島中、呂宋、其府よりカハヤン、
其其府より横濱スル川号ニ考く、此地今ヲ距
ル、三十年前、其く全ク西班牙領地、其く在、其
ク西班牙、其く海号不分明、其く尋問多敷

四名者忽能然眉宇滿笑吳音同聲語及因于
 當時其細子名号生海、操操ヲ其リシ、
 事載スル所并々四名之陸地地名号何カ
 地圖に載スル所ト總合陸、
 陸人ニお連々多ク有馬考、
 通

ノコマデシ
 ノケラ

右當年五十三カ
 子六人

アントニヲ
 子三人

外務省

セリアコ
 子一人

右當年三十三
 子一人

メリソル
 子一人

右當年四十八
 子一人

考、通リ海ノ東、
 其口所通カ、
 及國柄、
 百里、
 スレ、
 且目、

廿七所且多國互據ハ多隣ノ常典ト爲スル也
川村ヲ登ルニ岸ノ原川洋ニ取テ以テ上官親^{イサノ}ノ上ニ敷
名ク漂流人居國ノ人殊分咽^ハレ上ハ一日ト連テ
帰國ノ便ヲ以テ是近接^トテ思^ハテ是運漂流ノ人
幸又大ナリト爲ル也此度^ノ留^ルノ期^ト是^ノ帰^ルノ便^ト收^ル
テ以テ護送^スル^ニ方^ニ是^ノ意^ト也上官^ノ舊^ノ故^ノニ拘^ル泥^ル
トテ送^ル改^メテ是^ノ所^ニ留^ルル^ニ去^リ交^ル隣^ノ情^ト也カ
且^テ是^ノ事^ノ子^トニ隔離^{スル}ノ心^ト何^レ也然^レニ堪^ル事^ト也
再^テ是^ノ上官^ノニ互^ニ度^ニ說^ル諭^スル^ニ方^ニ是^ノ意^ト也當^レ此^ノ時^ニ收^ル昭
示^ス也是^ノ付^テ右^ノ四人^ノ者^トハ市^ノ附^ル流^ル之^ノ人^ト也七^ノ人^ト是^ノ近
所^ニ也

外務省

及^テ此^ノ時^ニ引^テ送^ルル^ニ方^ニ是^ノ意^ト也
之^ノ上^ニ是^ノ出^ル所^ニ於^テテ可^ク然^ル端^ト也是^ノ事^トハ
ト^テ是^ノ也

四月廿四日

柳海軍大臣

伊地知貞馨

校済

其地諸島測量船大坂丸去月廿八日
島分田流此年七月廿五日島に際流に
牙管内に定宗之者ノコメデシノアントニヲ。セリ

アコノメルリルノ之曰名は渡送政本に付此三
出帆之は縣管の至る宗三邦丸に為棄地
外万能堂之程雲上為附添至出帆此船が
急速去寄船と渡送は波有之夜内縣

外務省

之を呈呈封去函は及長掛合也

明治六年七月二日 琉球藩五郎

堀江如務お録

如務九等出仕福壽季連

麻兒島縣

15中

高川田名之者所持之函に別紙目録之通
有之也

校濟

当地諸島測量私大坂丸去日正官八重山島
分洞流此年七月十日島、漂浪ハ西班牙領
臣宗之者ノコメデシハ三名誘引凡付法有
在方先子逃出強犯又取調ハ此西班牙官下之
者ハ逃世之り官意氣私三邦丸ハ為果但
荒見島船と送座日線分二渡送為法有官
領引渡方ハ取付有之故委細ハ海軍部
紙て以取知者之故一件書類悉皆取添ハ取
及古掛合取也

外務省

明治六年五月二日

陳赫藩在初

堀江外務少丞

外務省に於ては
明治六年五月二日

長崎縣

長崎

高江名之者所持横文当地に話者之之と稱す

此調査者之發見亦亦影し次南上方が本
詳細は此の図に記すこと後編し上も本
有る事此處者之發見合し進しや

地誌

REEL No. 1-0321

0079

去年七月廿七日未明南風見村の内大野上
渡小舟之艘之揚也原出し去より雨に役
人より出付り遊古役人等者立寄見座に
以知其人陸下言語文字不左通及飢渴
以件者見以付湯粥杯を共追く大抵の遠
居候事打り紙有る不極し内かついで雨
人家を離り雨も亦至り調直り入る村

外務省

分彼村三反帆舟より後、寧領より送來り
付私事等者頭想横目出念通詞より本
玉漂着し、河舟在尋知とひからをとり雨
之者洋中風波、急本舟破下出、本村本
播伐捨候、及難候者、雨波漂着り、其
大概の換り、以念通古亦、是に至る、端
望ッ付り至り

付知其人、元路、本錦布、其宛、其興、以



一舟は海に漂ひ引込に付見分は此船が修補の
可樂物に込に右に居る西人、左は連身分計
を以て金一兩來りて、右に小舟より、左は
難樂波りて、海に何れか、右方より、
計其波りて、換者なり

附言物に、海に引込に通し所持仕よ、疑難物
一切世に

外務省

地至るに、此は候打今日十六日、軍艦大
坂丸下り、有る葉合、官負、此が如、西人、在る、
寫方、右に、是る、厄、其、一、九、來、右、葉、此、が
那、爾、と、は、列、波、右、來、右、居、右、作、右、計、右、料、右、者
と、是、方、より、送、座、先、規、右、葉、此、等、右、仕、也、是
順、風、右、身、右、波、出、帆、右、右、列、波、右、海、右、免、右、
作、付、右、上、一、性、右、少、海、右、右、來、右、身、右、一、大、生、後
右、又、官、負、右、此、右、如、西、人、右、不、意、漂、右、居、右、極

不候之候旨可申之御由に方之計候可也
大抵九ノ頃凡世儀事之由可波出帆に旨
既ニ乗付に候分ケテ候に由是方之計候旨
私系事諸候想候目生即候に外玉人木更
孫上人殿旨物事取改發迄方大抵九乗
付若父子大源仁登通詞方事去玉去
仁登亭領ノ付事登ノ由方事取候旨披
書海舟物以上

附外國人乗取形 格後任事
外務省

石四月十日 八重山島在留

法談之儀

右ノ通ノ事以上在留ノ由

明治六年四月十日 琉球藩

福壽李連海

馬口封札
八重山島在留事取形 格後任事
既ニ乗付に候分ケテ候に由是方之計候旨
私系事諸候想候目生即候に外玉人木更
孫上人殿旨物事取改發迄方大抵九乗
付若父子大源仁登通詞方事去玉去
仁登亭領ノ付事登ノ由方事取候旨披
書海舟物以上

抄

覚

一 衣裳入庫匣箱四ツ

一 仕部ツ休館お部ツかや館お

一 枕四ツ

一 小刀部又

はらまきり山とて角とて一筋今とて丁部

一 庖丁部又

はらまきり

一 山刀き又

はらまきり

外務省

一 よろしき又

一 巾細部又

一 粉箱部袋

一 水入甕部又

一 土鍋部又

二枚見破換既今部とて

一 藤子部三ツ

一 鍋三ツ

一 木子部部又

一 紐物置ニツ

一 木置ニツ

はよ破換すし

一 椰子皿四ツ

はよ破換既令ニ取付ス

一 一ツ之果袋永ツ

但果入付

一 のみニツ

一 三味線ノ櫛箱拍ニツ

一 弥帆櫛ニ本長ニ并ニ大ニ寸也

はよ破換すし

外務省

一 櫛ニツ

はよ破換すし

四月廿日

共済

一此口大坂九より乗せ舟外五人九下程に
舟紙之取と左調久末村大七人通り并通り
係高宗城筑之祝雲上祁山重之祝雲附添
天久寺より至里地方友より目録事九
波口如波受納之換等を以厚謝禮為有之
此通り係九在四^由是危^由出者之^由以^由此^由在
也也

外務省

明治六年四月廿六日

琉球藩

福壽李連海

校濟

一此日七内分八主山島漂岩之如西人口人の厚
疆大極丸乘令那霸^覇人津子迷引波五
作付^付付法家天久古、石並通有係を以本
玉并際岩、以舟丸尋させり交占宋と内と
ひつをさりし、漁舟洋中逸難風八主山
島、漂波波^波位^位子換言^言も在^在通^通、^付付茶葉
子^子教^教飯^飯其^其、^付付^付位^位は^は座^座り^り也

外務省

明治六年四月廿六日

琉球藩

福壽季連殿

檢済

一 木棉草初衣袴口通

一 三袋口通

一 半履口通

右際岩知由人元不自出所去見治以付地方
有よりし形ヲ以今日通子係去宗博汎登

親雲上祇山里之子親雲上天久去至是

治こん此ふ在波此波受納子換号と以厚

外務省

謝禮为者之候通子係入一在田是凡出

者之候は候此在り也

明治六年四月廿日

阮陳藩

福寄李連政

0000

REEL No. 1-0321

第五号大記

以月書

一 漂浪人し海に付松海軍大佐分し松合達と
通

一 日多件に付若吹島船し在書寫と通

一 日防に付長壽船し在書寫と通

一 日防に付琉球船し在書寫と通

他日印通別紙添

外務省

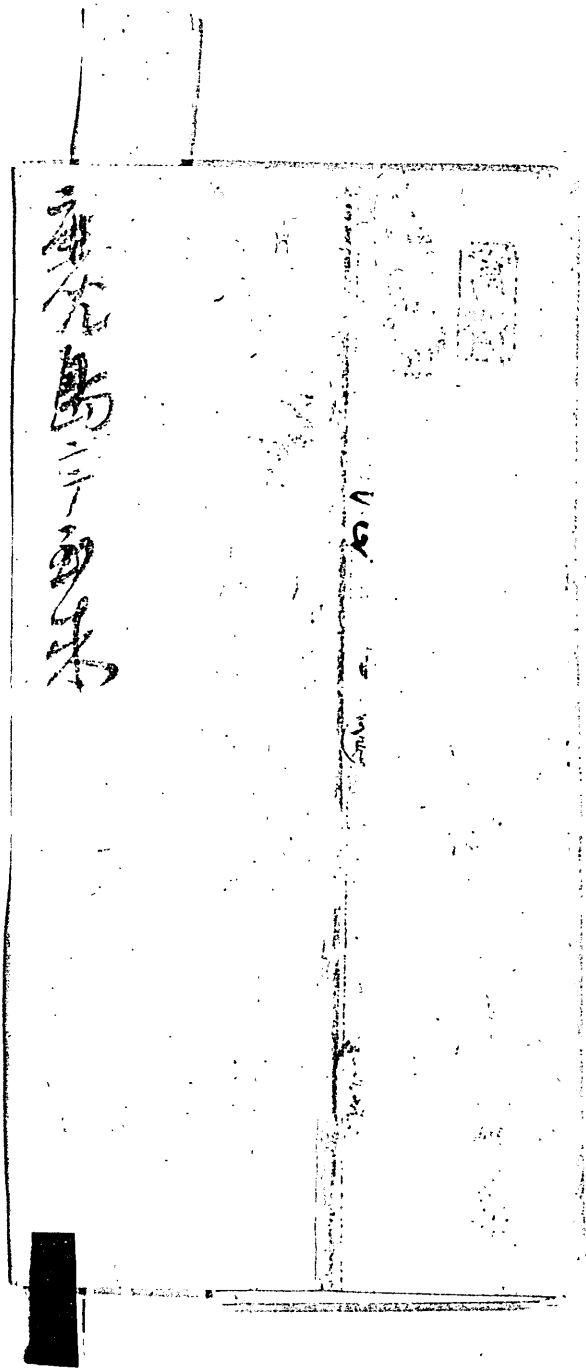
一 伊地敷海軍少佐江分

在封

一 小坂直達宅状

在封

ノ



REEL No. 1-0321

0090

寫濟

横濱丸大阪口指

清船職事と途中

清船一員と船

清船者三多しと船

お成り付横濱丸出帆

不拍先事と清船

取知はしと船

東京表と船

清船と船

船計一昨年と船

お船と船

附船と船

お船と船

後計明年上京

打替麻火清絲履

附派之坑人計

以次五の

亦与列百無念

沙府

横濱丸

兼下

如

大員見親

明治
二月四日

浦派親

堀江

寫濟

書信局

二月三日

少指

有る言

一、各段... 時... 再... 球... 祝... 舟... 便... 之... 決... 此... 能... 通... 漢... 船...

外務省

之... 決... 此... 能... 通... 漢... 船...

中止を得共前以迄既中止主然也

明治六年

藤元島藩留

六月二十日

外務少輔堀江弘毅

外務少輔上野景範殿

尚以上至之儀令下至紳名前去之通

有之也

外務省

寫濟

完

浦添親方

大宜見親重上

上江洲親重上

糸川親重上

外皆親重上

山里親重上

鏡波親重上

外務省

比嘉親重上

本朝親重上

永村親重上

山口親重上

喜世川親重上

高島親重上

津村

又吉

